

第2 災害

1 過去の主な災害

(1) 東海豪雨

東海豪雨は、平成12年9月11日から12日にかけて、日本付近に停滞していた秋雨前線に、台風第14号からの暖かく湿った空気が多量に流れ込んで、活動が活発となり、愛知県を中心とした東海地方で記録した大雨である。名古屋地方気象台が観測した日最大1時間降雨量97.0mm、日最大降水量428.0mm、月最大24時間降水量534.5mmは、いずれも統計開始以来最も多い値となった。

この大雨により、新川の堤防が決壊したのをはじめ、河川の破堤は20か所に達し、県内の浸水家屋は62,000棟を超え、がけ崩れが250か所、7名が犠牲となった。

清須市においても、新川の水位の上昇により、堤防の決壊や越水、排水ポンプの運転停止等により、家屋等に浸水被害等が多数発生する初めての大規模な災害となった。

この災害により、本市は災害対策本部を設置し、避難勧告等の応急対策、自衛隊の災害派遣要請を行い、災害救助法及び被災者生活再建支援法が適用された。

《土木関係被害》

道路をはじめ公園や下水道施設等、土木関係施設の多くが被害を受けた。特に、市の管理する公園は大半が冠水による被害を受けた。

また、下水道施設については、新川の堤防決壊により排水ポンプを停止し、停止に伴うポンプ場も浸水被害も受けた。

《産業関係被害》

農業については、野菜の冠水・流水等の被害が多く、被害総額は19,017千円にのぼった。

また、産業については、浸水や工場の冠水により生産設備が使用不能となり、直接浸水被害を受けなくとも一次生産を中止する等、市内の6割以上の事業所が被害を受け、被害総額は3,854,611千円にのぼった。

《衛生関係被害》

医療施設や社会福祉施設においても浸水の被害を受けており、児童福祉施設については8か所が被害を受け、被害総額は67,262千円となった。

また、水道施設については、清須市（合併前の旧西枇杷島町及び旧新川町）は名古屋市の給水区域となっており、水道施設の被害はなかったが、給水栓の水没や受水槽式給水施設のポンプの故障等により給水不能となった。

表 東海豪雨被害状況

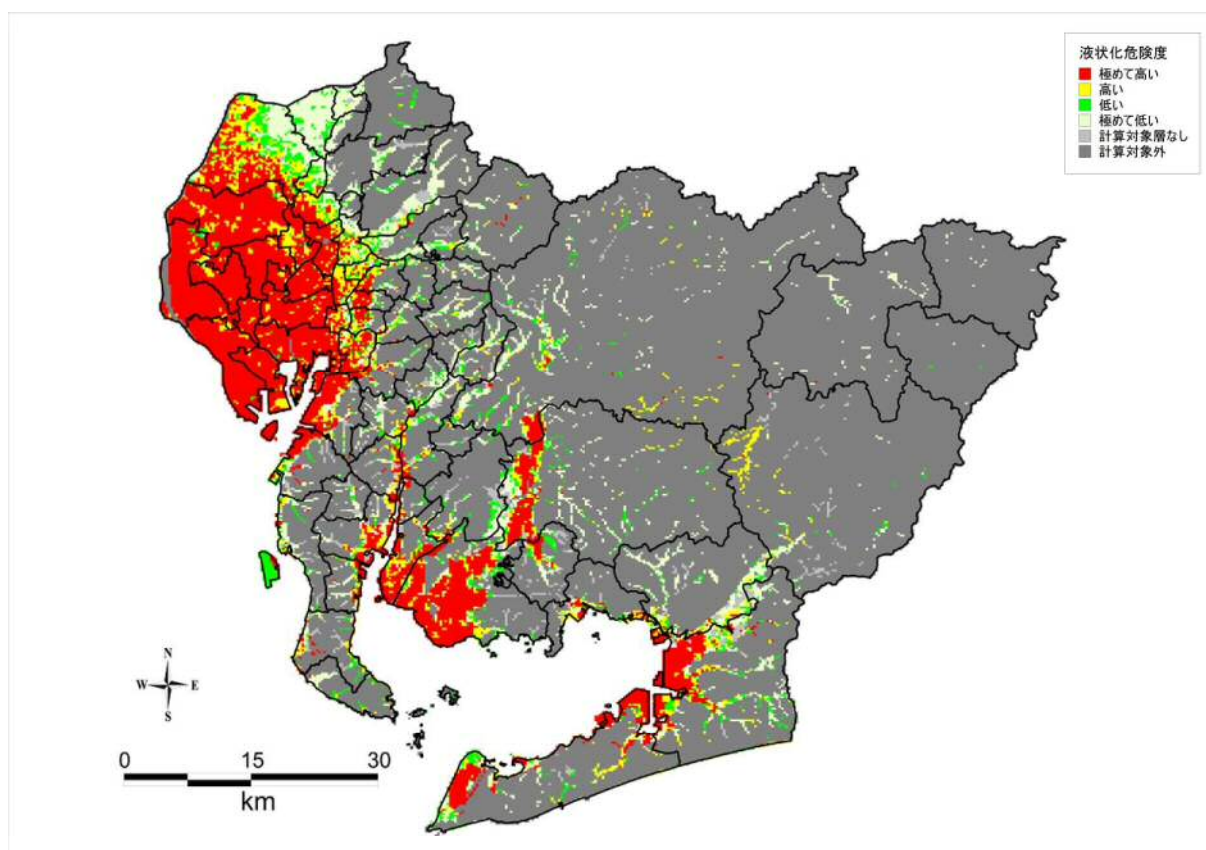
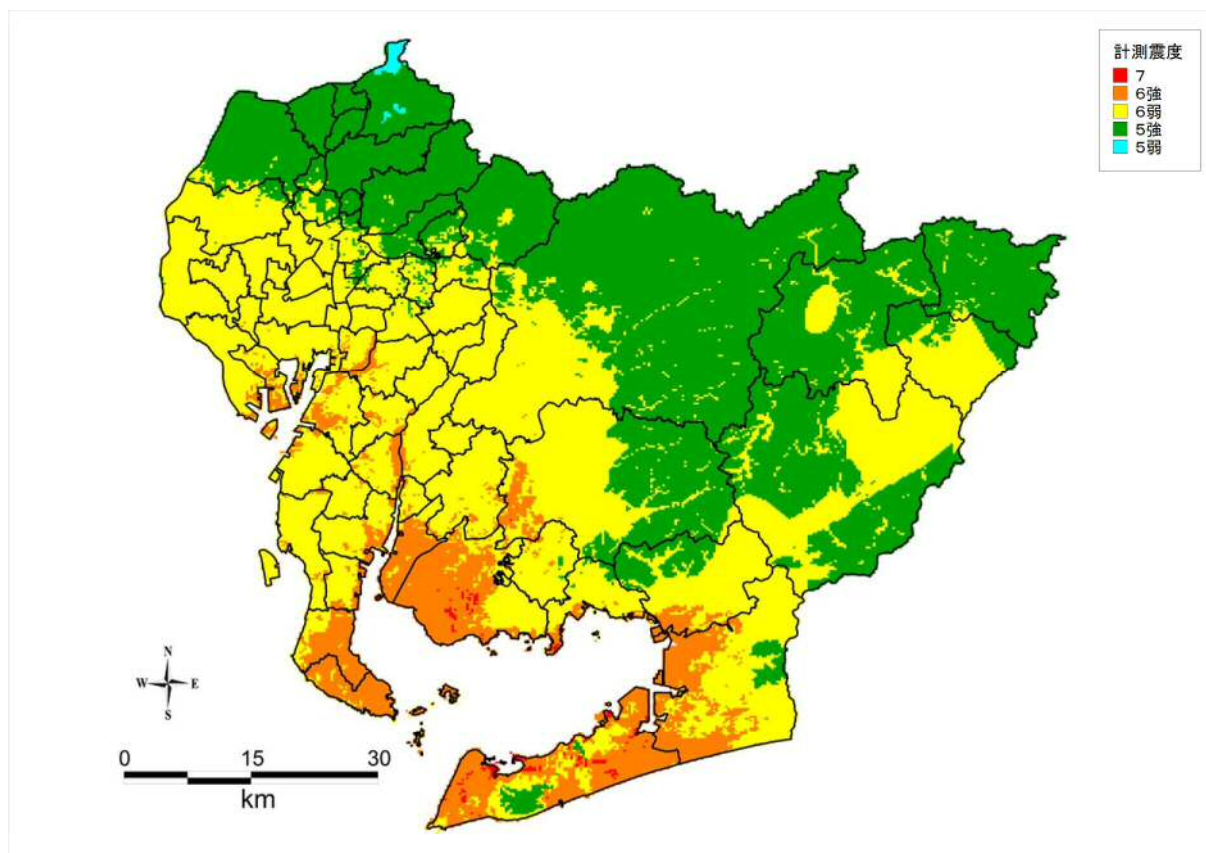
区 分		単 位	清 須 市		愛 知 県
被 人 害 的	死 者	(人)	—		7
	負 傷 者	(人)	1	旧春日町 : 1	107
住 家 被 害	全 壊	(棟)	—		18
		(世帯)	—		23
		(人)	—		78
	半 壊	(棟)	—		156
		(世帯)	—		189
		(人)	—		504
	一 部 損 壊	(棟)	—		147
		(世帯)	—		171
		(人)	—		617
	床 上 浸 水	(棟)	—		22,077
		(世帯)	5,429	旧新川町 : 1,233 旧清洲町 : 161 旧西枇杷島町 : 4,009 旧春日町 : 26	24,609
		(人)	14,850	旧新川町 : 3,928 旧清洲町 : 453 旧西枇杷島町 : 10,387 旧春日町 : 82	65,824
	床 下 浸 水	(棟)	—		40,401
		(世帯)	2,658	旧新川町 : 2,265 旧清洲町 : 337 旧西枇杷島町 : 13 旧春日町 : 43	41,226
		(人)	7,722	旧新川町 : 6,595 旧清洲町 : 1,011 旧西枇杷島町 : 40 旧春日町 : 76	111,927
非 住 家	公 共 建 物	(棟)	—		67
	そ の 他	(棟)	—		1,448

(2) その他被害のあった風水害

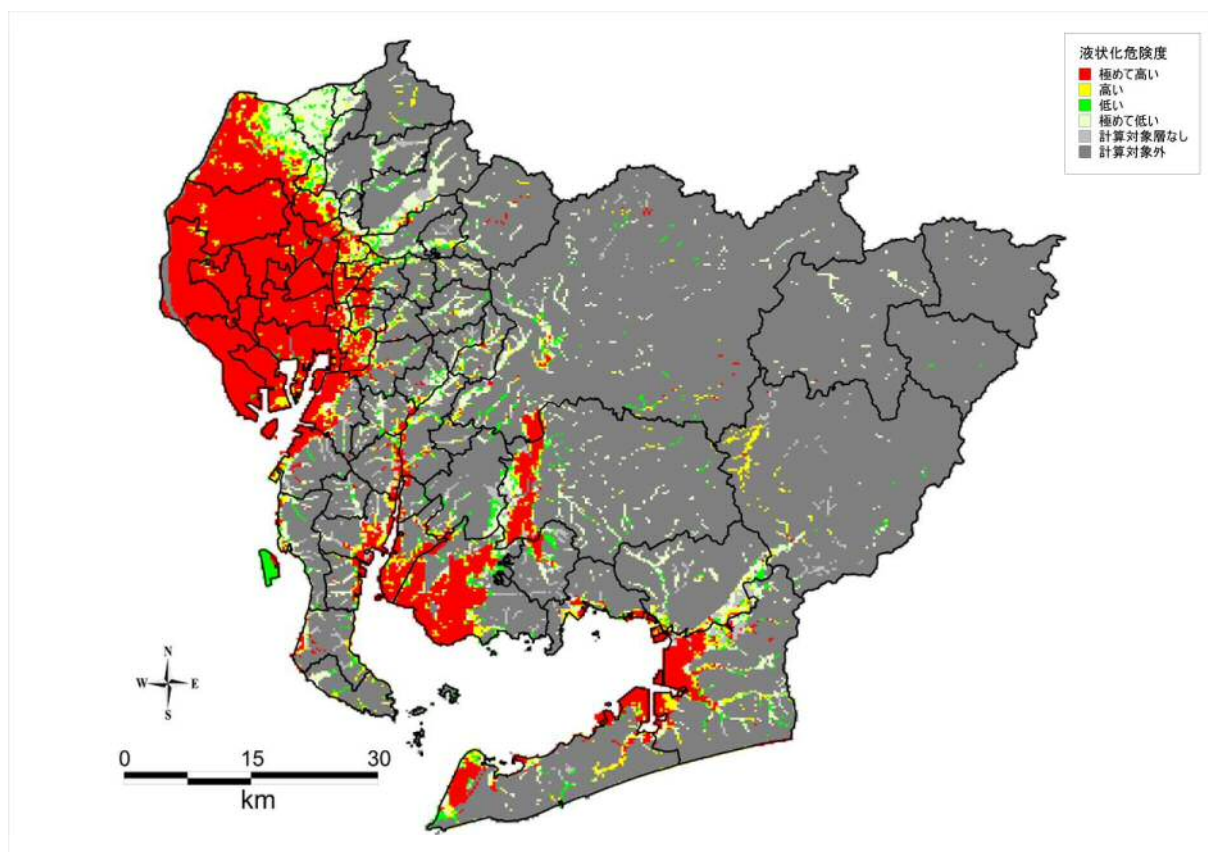
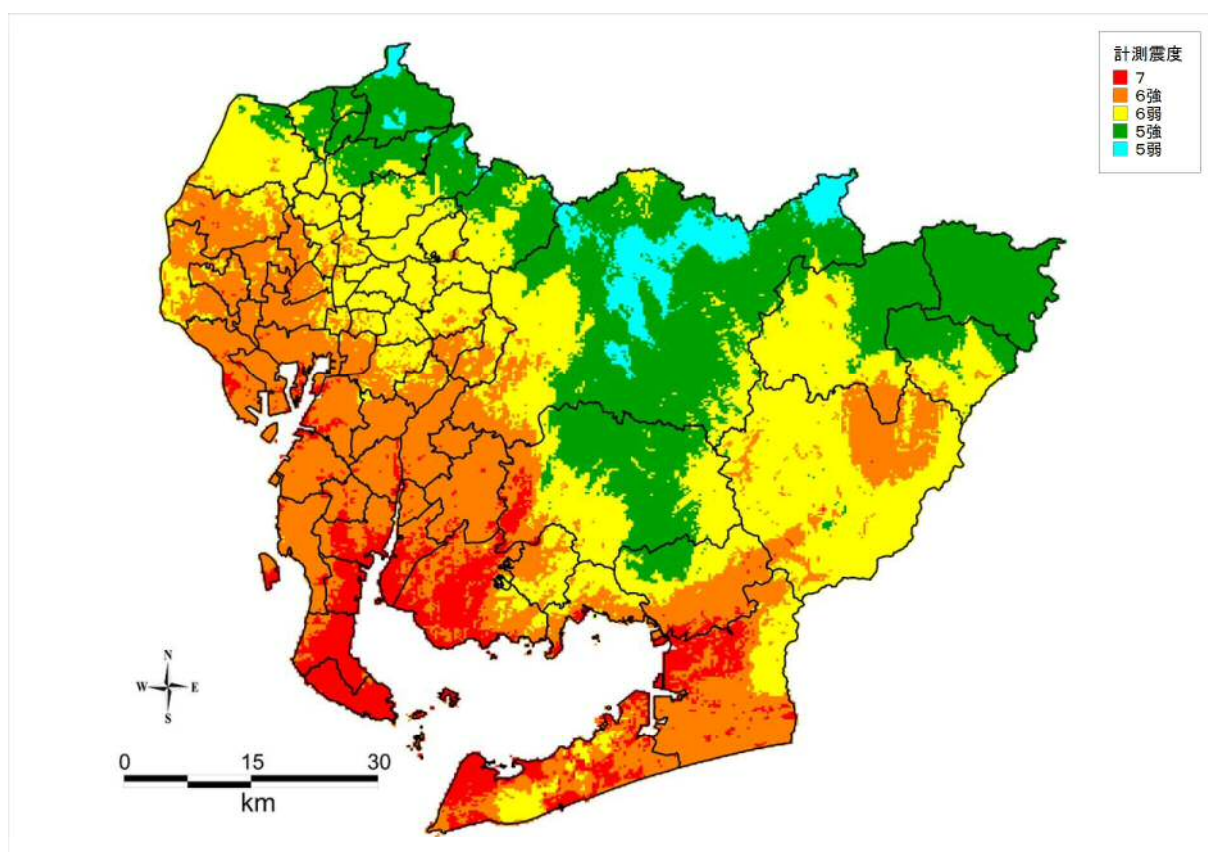
年 月 日	種 別 (名 称)	名 古 屋 の 記 録			本 市 の 被 害 概 要 ①災害の特徴 ②被害の程度
		最 低 気 圧 (hPa)	最 大 風 速 (m/s) 風 向	総 雨 量 (mm)	
平21. 8. 28~29 (2008年)	8月未豪雨	-	-	180.5	①短時間での豪雨被害 ②床上浸水2 床下浸水18
平21. 10. 7~8 (2009年)	台風18号	964.7	6.1N	162.5	①台風の通過による被害 ②床下浸水5

2 東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測

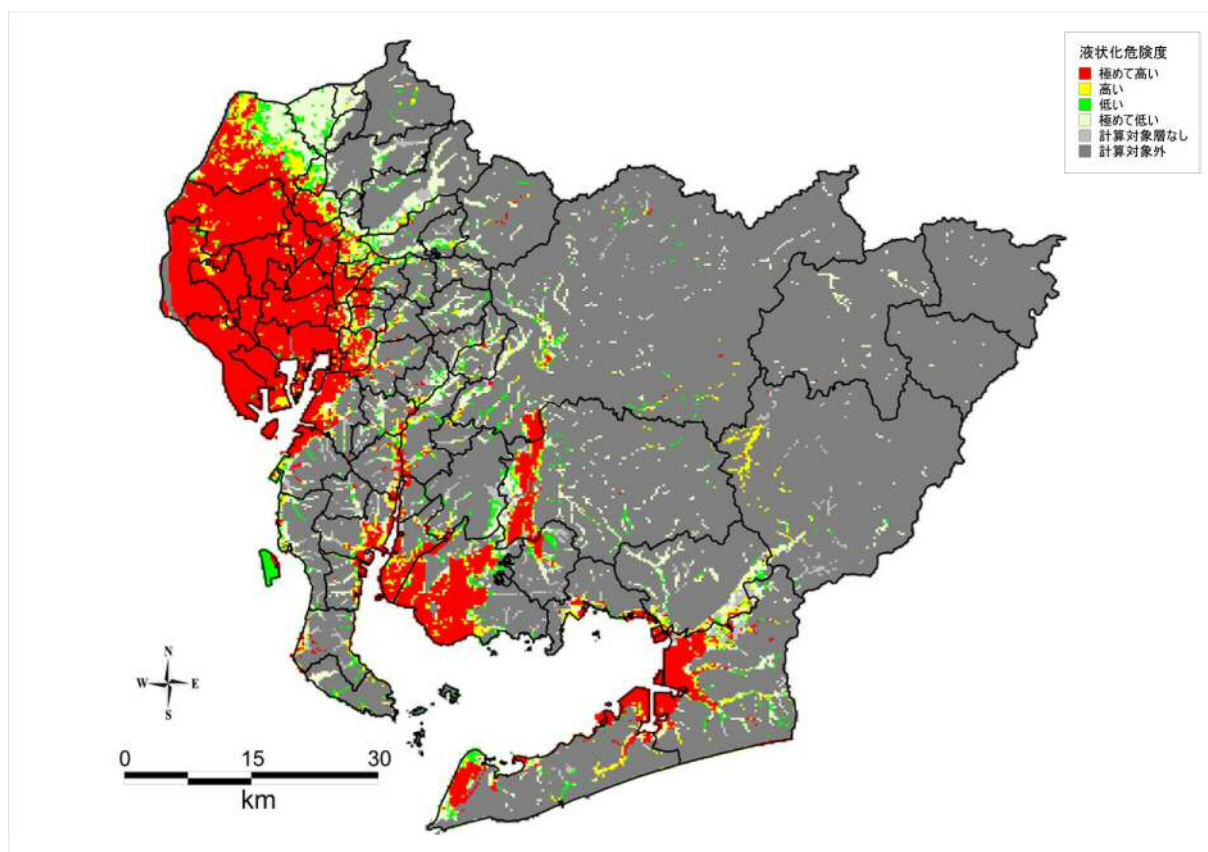
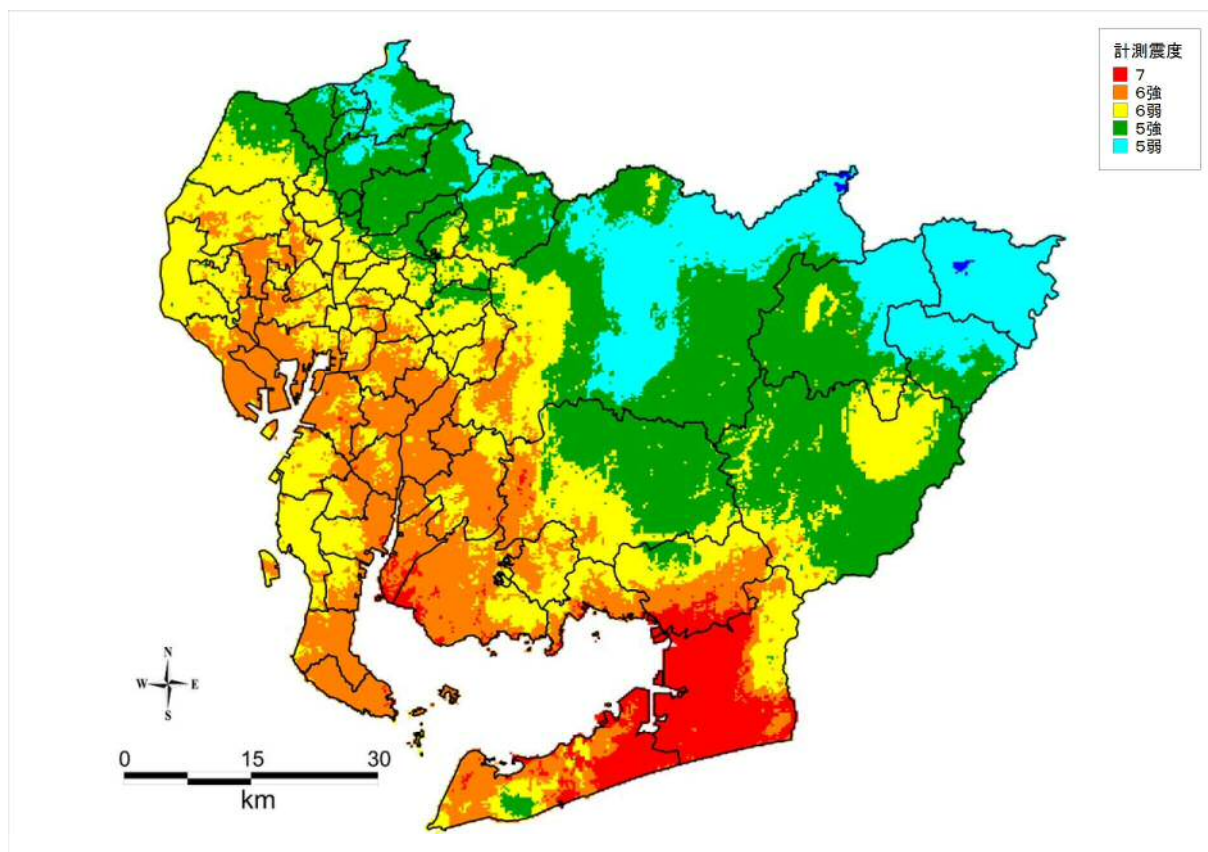
(1) 5地震参考モデル



(2) 最大想定モデル（陸側ケース）



(3) 最大想定モデル（東側ケース）



「平成23年度～25年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書」平成26年3月愛知県

3 県外の原子力発電所の位置

